

感染症 ひとくち情報

伝染性紅斑が警報レベルで流行しています

2015年7月30日

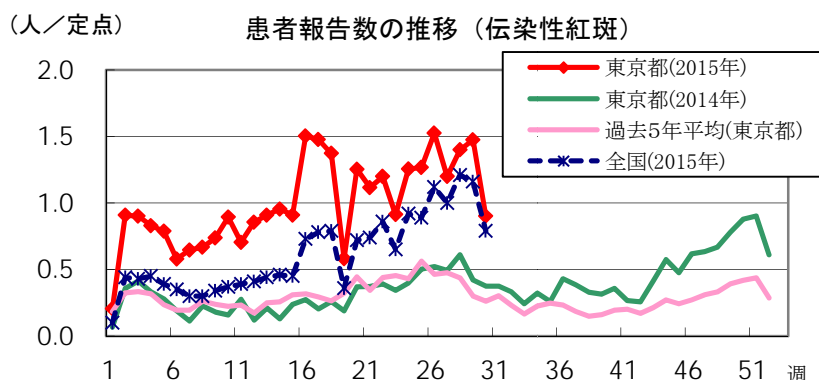
東京都健康安全研究センター

1 現在の流行状況(7月26日まで)

伝染性紅斑は年によって発生に差がみられる疾患ですが、昨年秋(第42週)より過去5年平均を大きく上回る状況が続いています。

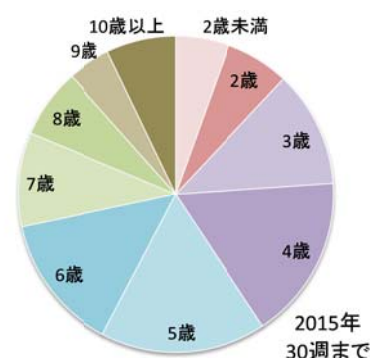
7月20日から7月26日(第30週)の1週間に報告された患者報告数は、定点*あたり0.90人と高い状況が続いています。

現在、保健所別の患者報告数が警報レベルにあるのは、31保健所中9保健所で、その管内人口の合計は、東京都全体の35.0%になります。



* 定点医療機関：患者が多い疾患を把握するために受診患者数を報告している都指定の医療機関

患者の年齢構成比



3～6歳の報告数が全体の半数以上を占めています。

2 伝染性紅斑とは?

ヒトパルボウイルスB19を原因とする感染症です。患者報告は小学校入学前後の小児のものが多いですが、成人の発症もあります。

症状は、両頬に紅い発疹、体や手・足に網目状の発疹がみられ、1週間程度で消失します。発疹が淡く、他の疾患との区別が難しいこともあります。発疹が出現する7～10日前に、微熱や風邪のような症状がみられることが多く、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。

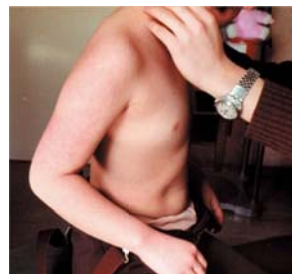


両側の頬に出現した蝶翼状の発疹

3 予防のポイント

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに触れることによって感染(飛沫・接触感染)する感染症なので、一般的な予防対策(手洗い、うがい、咳エチケット等)を心がけることが大切になります。

妊娠中(特に妊娠初期)に感染した場合、まれに胎児の異常や流産が生じることがあります。周囲で患者発生がみられる場合、妊娠中あるいは妊娠の可能性のある女性は、できるだけ患者との接触を避けるよう注意してください。



上肢伸側に出現した発疹
国立感染症研究所
感染症情報センターHPより

* 東京都感染症情報センターの「[伝染性紅斑](#)」のページもご参照ください。

伝染性紅斑 東京都

検索

